



1. BENI。包装や容器、中身にもプラスチックを使用していないプラスチックフリーエシカルリップだ
2. 「どの肌にも馴染みやすく、主張しすぎないダーク系の赤でマットな質感にこだわった」とのこと。今後はまた違った赤の商品も視野に入れる
3. 木住野舞氏



コンセプトはエシカル×エンパワーメント 国内初のプラスチックフリーエシカルリップ

Menary / BENI

Menaryはエシカル×エンパワーメントをコンセプトに「女性本来の美しさ」と「環境・社会への貢献」を追求するブランドだ。容器にも中身にもプラスチック素材を一切使用しない、日本初のプラスチックフリーのエシカルリップ「BENI」を展開する。

このブランドを立ち上げたのは木住野舞氏。木住野氏は大学卒業後、日本の大手ホテル勤務を経て、シンガポールの外資系ホテルに転職。海外の一流ホテルでゲストリレーシヨンマネージャーとして接遇や指導にあたる中で「メイクの持つ力」を再確認したという。「赤リップを引くと背筋が伸び、オンモードになり、自然に自信が生まれてくると感じていました」

また現地では、日本のコスメは人気だったが、敬虔なイスラム教徒も多く、原料などを理由に使えない化粧品も多かった。木住野氏は「コスメ」に強い関心を抱くようになり、また一方では他業態同様に業界が抱える海洋プラスチック問題に対しても強い問題意識を覚えるようになった。欧米などでは、一部プラスチックフリーの取り組みが進んでいるが、日本製でマイクロプラスチックが使われていないリップは存在しなかった。

「女性の強さや本来の美しさを引き出すコスメは環境にも優しいモノであって欲しい」と考えた木住野氏は、2020年7月に帰国し、プラス

チックフリーコスメの開発をスタート。製造を請け負ってくれる会社探し、コストなど課題は山積していたが「オンモード」の木住野氏は決して諦めなかった。協力企業も見つかり、試行錯誤を繰り返して、1年間の開発期間を経てBENIが誕生した。

BENIの素材にはオレンジ、クスノキ、ティーツリー葉などを配合。香料には自然な香りをもつイランイラン花油を使用。アルコールや動物性の原料は使わず、オーガニックでクルエルティーフリーなBENIはヴィーガンやムスリムの方も安心して使用できる。その人本来の肌の色と美しさを活かせるようにカラーは「エンパワーメント」を表現した赤を採用した。使い勝手やデザインにもこだわっており、形状はコンパクト型だ。

2021年8月にはMakuradeで先行販売を実施。コロナ禍では「リップ」市場自体がシユリンクしており、向かい風でのスタートだったが、次第に認知度も高まり、想いに共感する人も増えてきた。ポップアップ店やセレクトショップでの展開など販路も拡大。なお収益の一部は国内外での女性の自立支援活動に充てられている。

「BENIを通してエシカルを追求、また女性のエンパワーメントをサポートしていけたらと考えています。興味、ご関心を持っていただける方はぜひお声がけいだけたらと思います」(木住野氏)